

エゾシカ捕獲事業実施から3年目を迎え ～捕獲事業の経過と課題～

日高南部森林管理署

御園西森林事務所

後藤 正等

奥静内森林事務所

坂口 拓

背景・目的

日高南部森林管理署が所在する日高地域においては、エゾシカが2000年頃から顕著な増加傾向を示し、近年では道内で最も生息密度が高い地域の一つとなっています。また、日高地域は軽種馬の産地として有名ですが、エゾシカによる牧草などの農業被害も発生しており、エゾシカの個体数削減は地域の課題となっています。さらに、北海道の森林面積の多くを占める国有林での取り組みは、道内のエゾシカ対策に大きく貢献するものと期待されています。このような背景から、今後の国有林におけるエゾシカ捕獲対策及び捕獲手法の検討・検証を目的として、日高南部森林管理署ではエゾシカの誘引捕獲事業を平成27年度から実施しており、今年度3年目を迎えました。この間の捕獲事業の取り組み状況と今後への課題を考察しました。

内容

1. 事業地、捕獲手法の選定

事業地については、狩猟入林者の多い管内において、道道が未開通であることから狩猟者を含めた一般車両の通行が禁止されているため、狩猟及び有害鳥獣駆除が実施できず、狩猟困難地となっている地区を選定しました。

捕獲手法については、管内では猟銃による狩猟・有害鳥獣捕獲において、多くの捕獲実績があることなどから、餌付けにより誘引し猟銃により捕獲するモバイルカリングによる捕獲事業を実施することとし、事業2年目からは、エゾシカの出没状況を把握し捕獲の参考とするため自動撮影カメラの設置及び、新たな捕獲手法の検証、夜間時の捕獲を目的として小型囲いワナによる捕獲も併せて実施しています。

2. 事業の成果

事業の成果としては、狩猟困難地において事業としてエゾシカ捕獲を実施することができたこと、2年目に捕獲頭数（表1）を増やすなど、エゾシカ捕獲手法としてモバイルカリングが有効であることが実証できたこと、捕獲した個体を地元において食肉加工用として有効活用することができたことが上げられます。

表1 捕獲総数

	捕獲総数	平均捕獲頭数
平成27年度	43	1.6
平成28年度	72	2.7
(うち囲いワナ捕獲数)	(8)	

今後の展望

今年で3年目の捕獲事業を実施していますが、今までの経験・結果を踏まえ、今後の事業実施及び継続にあたっては、引き続き以下の点に留意し検討します。

(1) 自動撮影カメラのデータを活用するなどして、年間を通じた生息状況や動向を把握し、より効果的な捕獲手法、事業地を選定する。

(2) 事前に捕獲頭数などの目標を明確に設定し、その後の事業に活かすよう実施結果を分析する。

(3) エゾシカ対策については、北海道や各町村においても同様の捕獲事業や様々な取り組みを実施しているので、情報交換を行うなどして互いの対策に役立てるとともに、地元の要望にも配慮した事業を検討する。